



<関保年表>

(●高塚古墳、◎政權試定、高塚古墳、——横穴墓、□火葬墓)

五反田川流域	平瀬川流域	矢上川馬川流域	(日本列島)	(朝鮮)
300				
四世紀				
400	●久世伊屋之免		●横穴墓 九州出現	高句麗 百濟 新羅 百濟 百濟 百濟
五世紀			倭の五王	
500	●津田山		527 蘇我磐井乱 534 武蔵国造乱	532 百濟加羅4卿 532 任那加羅滅亡
六世紀	●伊賀塚 ●日向	◎西福寺		
600	●長者 ●長尾 ●上作延 ●釈聖寺	●法界塚 ●馬絹	白村江の戦い 663 668 高句麗滅亡	
七世紀	●長者 ●穴			
700			710 平城京	
八世紀	●長者 ●穴		774 平安京	
800				
九世紀				

これに関連して、『続日本紀』神護景雲三年(壬戌)六月十一日のつぎの記事が注目される。  
 (前略)是に於て、武蔵國橋本郡の人飛鳥部吉志五百國、同國久良郡に於て白雉を獲て獻す。(中略)又國司及び久良郡司に各位一級に叙し、其の雉を獻する人五百國には、宜しく從八位下を授け、總士疋、綿二十疋、布四十疋、正税一疋束を賜ふべし。

この背景は、  
 「吉志」といふ姓もつのは、早くから百濟・伽羅・新羅から渡来した長族で、朝廷に重用された。外交面でも、  
 秘傳に活躍。

→ 川崎北部は6c中ごろ以後大和朝廷の屯倉であり、渡来系の官僚が多かった。  
 ~ 以上渡来の通説 ~

●私説;  
 蝦夷侵略との関保は(口)か? 久世など其他として、朝廷(北九州—大和と北)は(南東)を重視していたのか? 穴塚は、急速に南進する必要があった。  
 ① 穴塚(神護景雲) → 横穴墓の存在  
 ② 軍馬の生産  
 ③ 屯倉の管理 → (横穴墓の主、火葬墓の主)

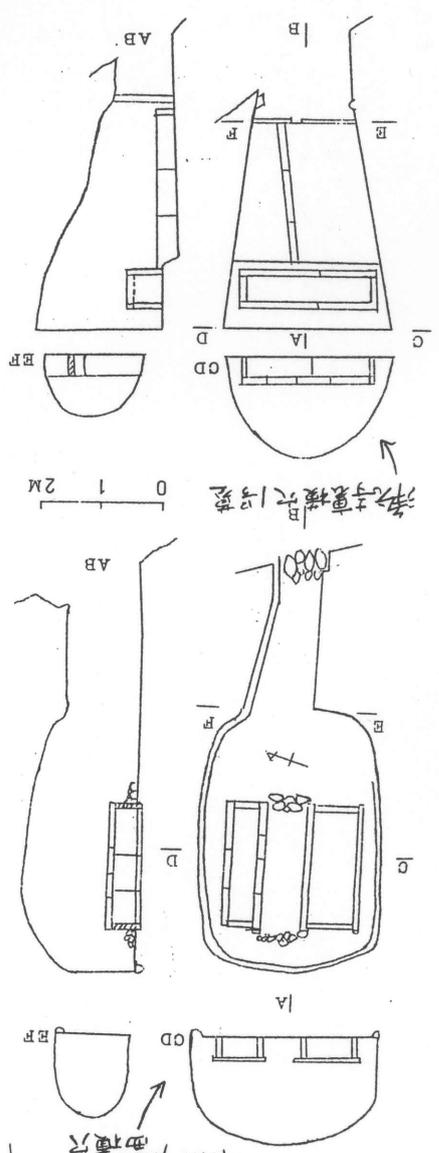
理由 ① 常陸国土記にはすでに蝦夷の斗争(記事あり)  
 ② 横穴墓と馬の関保あり  
 ③ 穴の他。

○平瀬川流域と奈良時代の寺院あり、どうして?  
 理由 ① 銅鏡=仏具、早くから仏教の伝来  
 ② 市北の他の地域域は、奈良時代寺院あり。

●参考文献:  
 ① 川崎の歴史全貌...「加志」の歴史...川崎、村上直孝著、文芸春秋、1981年  
 ② 「古代...」古代...「古代の南武蔵」、村岡文夫著、有隣新書、1993年  
 ③ 九州王朝...「失物から九州王朝」、古田武彦著、朝日新聞社、1973年 (朝日文庫行版)



0 1 2M

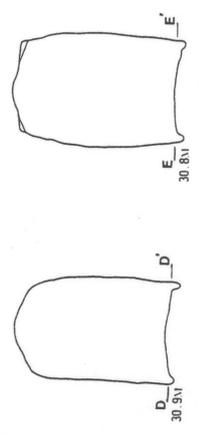


東生田横穴墓



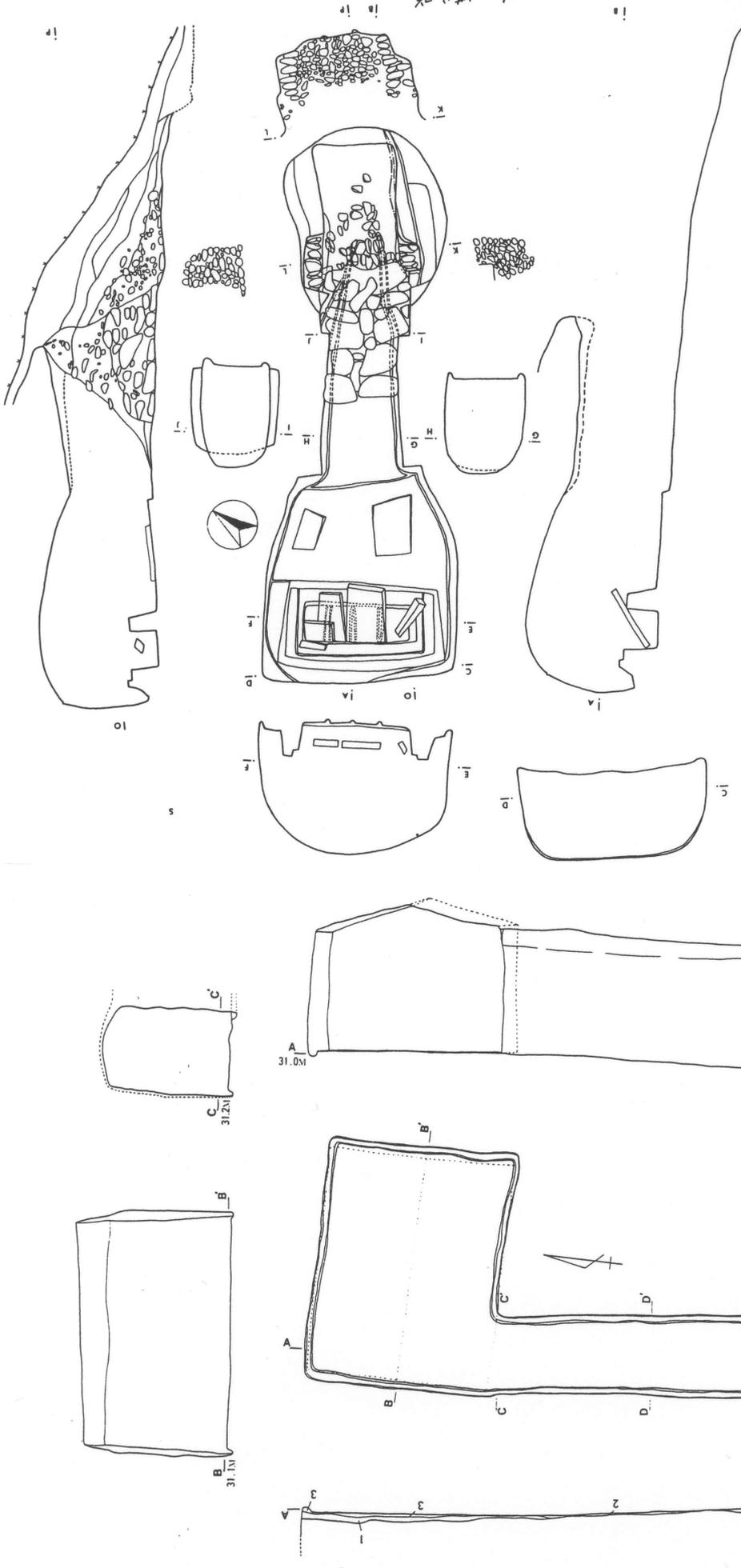
山山横穴墓

第3図 遺構実測図 (東生田横穴墓)

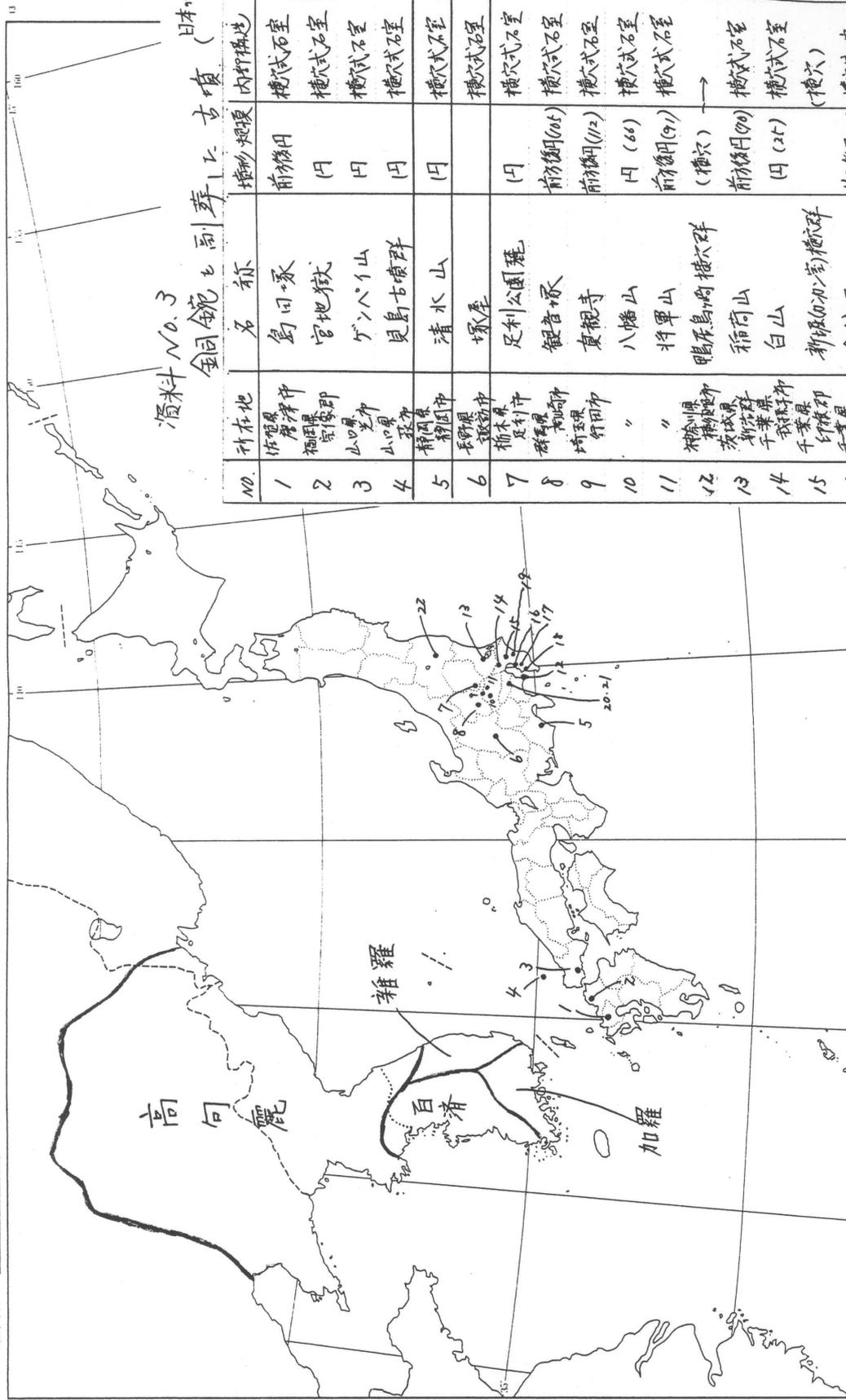


西生田横穴群 第3号横穴墓 平面图及び断面图

0 3M



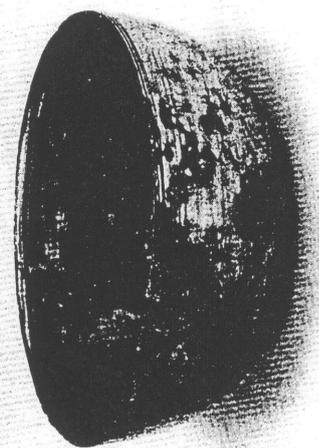
西生田横穴群



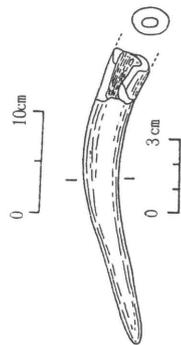
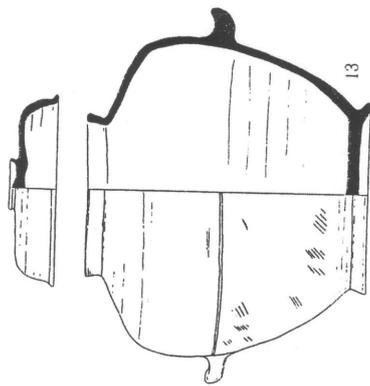
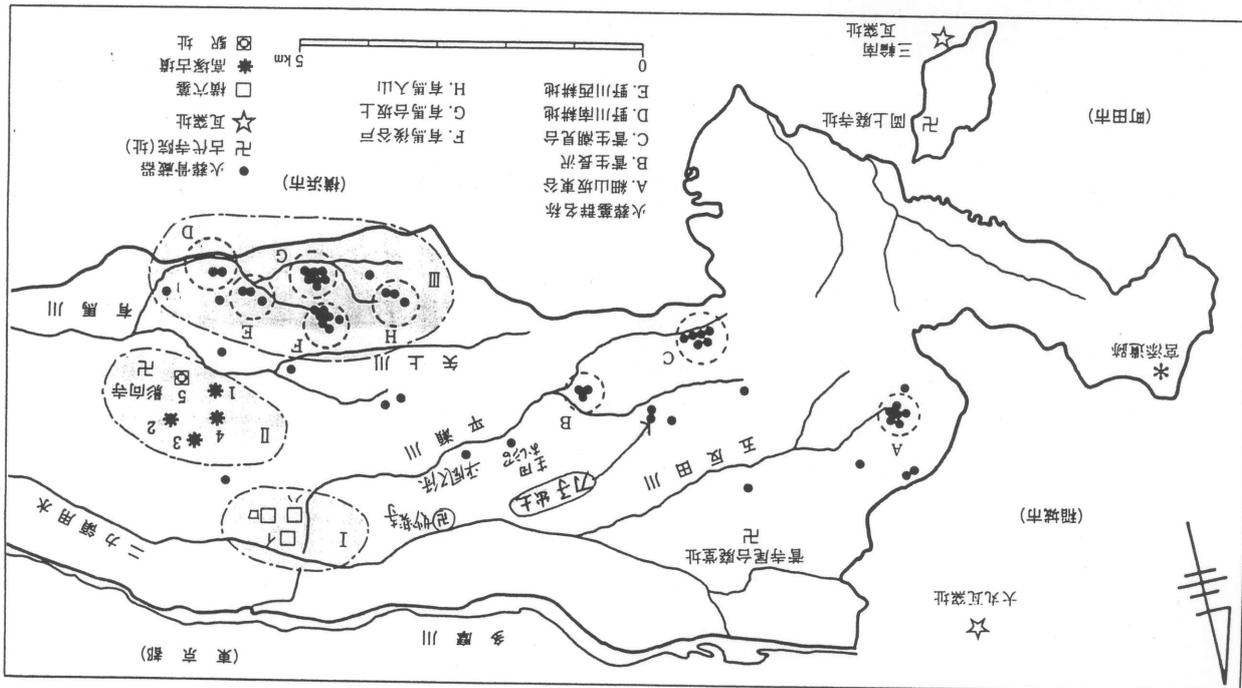
資料 No. 3

銅鏡と高句麗 (日本, 考訂 IV, 1966年刊行)

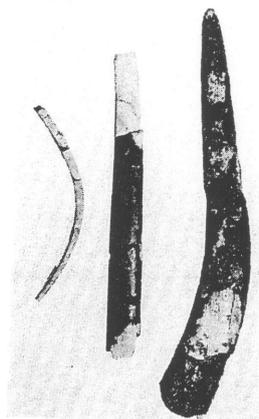
NO.	所在地	名称	墳形規模	内打構造	出土地
1	佐賀県 唐津市	島田塚	前方後円	横穴式石室	金銅冠等出土
2	福岡県 宗像郡 山崎町	宮地塚	円	横穴式石室	金銅冠, 馬具等
3	山口県 山崎町	ゲンハイ山	円	横穴式石室	環頭柳葉大刀等
4	山口県 萩市	見島古墳群	円	横穴式石室	金銀環等出土
5	福岡県 糟屋郡 粕屋町	清水山	円	横穴式石室	金環, 馬具等
6	福岡県 糟屋郡 粕屋町	塚屋	円	横穴式石室	首, 馬具等
7	福岡県 糟屋郡 粕屋町	足利公園苑	円	横穴式石室	金環, 馬具等
8	福岡県 糟屋郡 粕屋町	銀倉塚	前方後円(0.5)	横穴式石室	金環, 馬具等
9	福岡県 糟屋郡 粕屋町	真観寺	前方後円(1.2)	横穴式石室	金環, 馬具等
10	福岡県 糟屋郡 粕屋町	八幡山	円(6.6)	横穴式石室	乾燥指等
11	福岡県 糟屋郡 粕屋町	將軍山	前方後円(9.1)	横穴式石室	金環, 銅環, 短弓
12	福岡県 糟屋郡 粕屋町	鴨居島崎古墳群	(横穴)	→	圭頭大刀等
13	福岡県 糟屋郡 粕屋町	稻荷山	前方後円(0)	横穴式石室	金環, 銅環等
14	福岡県 糟屋郡 粕屋町	白山	円(2.5)	横穴式石室	金環, 直刀等
15	福岡県 糟屋郡 粕屋町	新塚(加古岩)古墳群	前方後円(9.4)	(横穴)	金鏡, 銅環等
16	福岡県 糟屋郡 粕屋町	金鐘塚	前方後円(6.5)	横穴式石室	銅鏡等
17	福岡県 糟屋郡 粕屋町	丸山	前方後円(6.5)	横穴式石室	金環, 銅環等
18	福岡県 糟屋郡 粕屋町	内裏塚北方	前方後円	?	金環, 掛甲等
19	福岡県 糟屋郡 粕屋町	原塚	前方後円(6.0)	横穴式石室	金環, 銅環等
20	福岡県 糟屋郡 粕屋町	浄土寺古墳穴 1号		(横穴)	直刀等
21	福岡県 糟屋郡 粕屋町	日向古墳穴 3号		(横穴)	金銅冠, 馬具等
22	福岡県 糟屋郡 粕屋町	蝦表穴	円(3.7)	横穴式石室	



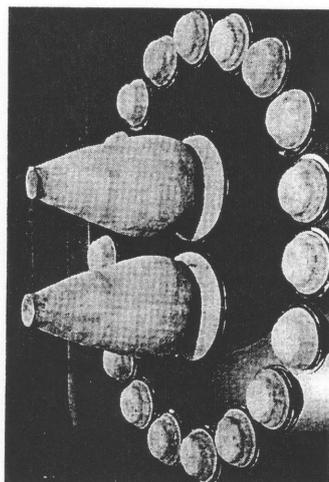
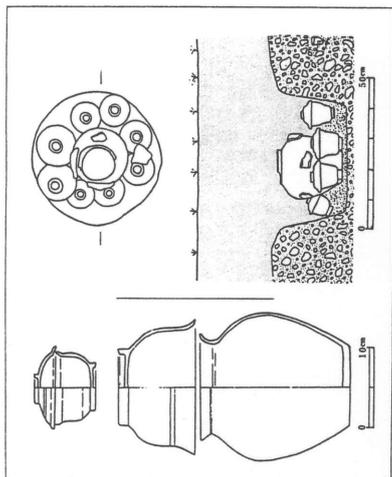
久地浄元寺裏古墳  
から発見された銅鏡



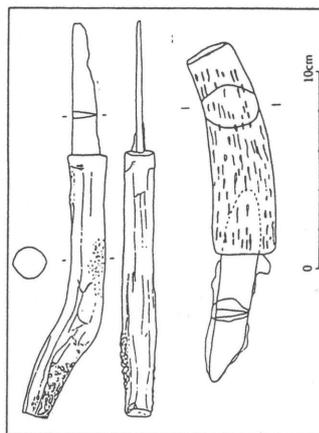
火葬骨盛器 (12~14), 13に伴出の鹿角製の刀子柄実測図



火葬墓伴出遺物  
 上より貝輪 (22に伴出)  
 簪状骨製品 (43に伴出)  
 鹿角製刀子柄 (13に伴出)



有馬後谷戸古墓の心室多塚式の復元状況(川崎市市民ミュージアム)



第67図 鹿角柄と着柄された刀子(上・大阪亀井遺跡, 下・韓国海南郡谷里見塚)(原報告より転載)

資料 No. 5

古事記 卷 神代

(元祿日本古事記文庫大系)

既に國を生み竟へて、更に神を生みき。故、生める神の名は、大事忍男神。次に石土昆古神を生み、次に石集比賣神を生み、次に大風木戸別神を生み、次に天之吹上男神を生み、次に大屋昆古神を生み、次に風木

(中略)

次に生める神の名は、鳥之石船神、亦の名は天鳥船と謂ふ。次に大宜新比賣神を生みき。次に火之疾速速男神を生みき。亦の名は火之疾速速神と謂ひ、亦の名は火之速具士神と謂ふ。此の子を生みしに因りて、美登、次かえ之病み臥せり。多具理速に生れる神の名は、金山昆古神、次に金山昆古神。次に尿に成れる神の名は、波速夜須昆古神、次に波速夜須昆古神。次に尿に成れる神の名は、彌波能能神、次に和久産巢日神。此の神の子は、豊宇氣昆古神と謂ふ。故、伊邪那美神は、火の神を生みしに因りて、遂に神遊り坐しき。

凡べて伊邪那岐、伊邪那美の二はしらの神、共に生める鳥、彦根鳥、神參拾伍神。

故に伊邪那岐命詔りたまひしく、「愛しき我が那邇妹の命を、と那の二はは生る子ハ一つ木に易へつるかも。」と謂りたまひて、乃ち御杖方に御觸ひ、御足方に御觸ひて哭きし時、御座に成れる神は、香山の岐尾の木の本に坐して、立澤の女神と名づく。故、其の神遊りし伊邪那美神は、出雲國と伯耆國との界の比婆の山に狩りき。

是に伊邪那岐命、御佩せる十卷劍を抜きて、其の子迦具士神の頭を斬りたまひき。爾に其の御刀の前に着ける血、湯津石村に走り就きて、成れる神の名は、

石拆神。次に根拆神。次に石筒之屋神。次に御刀の本に着ける血も亦、湯津石村に走り就きて、成れる神の名は、理日神。次に細速日神。次に建御雷之男神。亦の名は建布都神。亦の名は豐布都神。次に御刀の手上に集まれる血、手保より漏き出でて、成れる神の名は、閻波加美神。

上の件石拆神以下、閻御建羽神以前、并せて八神は、御刀に因りて生れる神なり。

殺さし迦具士神の頭に成れる神の名は、正龍山津見神。次に胸に成れる神の名は、波瀲山津見神。次に腹に成れる神の名は、奥山山津見神。次に膝に成れる神の名は、閻山津見神。次に左の手に成れる神の名は、志鑿山津見神。次に右の手に成れる神の名は、羽山津見神。次に左の足に成れる神の名は、原山津見神。次に右の足に成れる神の名は、戸山津見神。故、斬りたまひし刀の名は、天之尾羽張と謂ひ、亦の名は伊都之尾羽張と謂ふ。

是に其の妹伊邪那美命を相見むと欲ひて、黄泉國に追ひ仕まき。爾に取の藤戸より出で向かへし時、伊邪那岐命、詔らひ詔りたまひしく、「愛しき我が那邇妹の命、吾と汝と作れる國、未だ作り竟へず。故、還るべし。」とのりたまひき。爾に伊邪那美命答く白ししく、「悔しきかも、速く來て。吾は黄泉國へ喫爲つ。然れども愛しき我が那勢の命、入り來せざる事恐し。故、還らむと欲ふを、且、黄泉神と相論はむ。我をな神たまひせ。」とまをしき。如此白して其の殿の内に還り入りし間、甚久しく待ち難たまひき。故、左の御美豆良に刺せる湯津津間櫛の男柱一箇取り闕きて、一つ火網して入り見たまひし時、宇士多加禮許呂岐三頭には大雷居り、胸には火雷居り、腹には黒雷居り、陰には拆雷居り、左の手に黄雷居り、右の手に土雷居り、左の足には鳴雷居り、右の足には伏雷居り、并せて八はしらの雷神成り居りき。

是に伊邪那岐命、見長みて逃げ還る時、其の妹伊邪那美命、「吾に堅見せつ。」と言ひて、即ち珠母志許賣を遣はして追はしめき。爾に伊邪那岐命、黒御繩を取りて控け棄つれば、乃ち彌子生りき。是を疵ひ食む間に、逃げ行くを、猶追ひしかば、亦其の右の御美豆良に刺せる湯津津間櫛を引き闕きて投げ棄つれば、乃ち舞生りき。是を抜き食む間に、逃げ行きき。且後には、其の八はしらの雷神に、千五百の黄泉軍を討て追はしめき。爾に御佩せる十卷

劍を抜きて、後手に布俊都都を逃り來るを、猶追ひて、黄泉比良坂の坂本に到りし時、其の坂本に在る桃三箇を取りて、待ち懸ては、悉に返りけり。爾に伊邪那岐命、其の桃子に告りたまひしく、「汝、吾を助けしが如く、葦原中國に有らゆる宇都志伎、昔人草の、若し潮に落ちて思ひ惚む時、助けべし。」と告りて、名を賜ひて黄泉加牟豆美命と號ひき。

最後に其の妹伊邪那美命、身自ら追ひ來りき。爾に千引の石を其の黄泉比良坂に引き塞へて、其の石を中に置きて、各對ひ立て、事戸を度す時、伊邪那美命言ひしく、「愛しき我が那勢の命、如此爲ば、汝の國の人草、一日に千頭絞り殺さむ。」といひき。爾に伊邪那岐命詔りたまひしく、「愛しき我が那邇妹の命、汝然爲ば、吾一日に千五百の産屋立てむ。」とのりたまひき。是を以ちて一日に必ず千人死に、一日に必ず千五百人生まるるなり。故、其の伊邪那美命を號りて黄泉津大神と謂ふ。亦云はく、其の追斯殺斯を以ちて、道敷大神と號くといふ。亦其の黄泉の坂に塞りし石は、遣反之大神と號け、亦塞り坐す黄泉戸大神と謂ふ。故、其の謂はゆる黄泉比良坂は、今、出雲國の伊賦夜坂と謂ふ。